

富山新聞

2026年(令和8年)

8月13日(木)

北國新聞社
富山本社
〒930-8520 富山市大手町5番1号
番号案内(076)491-8111
金沢本社 番号案内(076)263-2111
〒920-8588 金沢市南町2番1号
©北國新聞社 2026年
https://www.hokkoku.co.jp/list/toyama

脳神経外科・脳神経内科・脳ドック
内科・整形外科・リハビリテーション科

西能みなみ病院

富山市秋ヶ島145-1
TEL 076-428-2373

- 20th Anniversary -



社説 北陸の最低賃金

国の目安に着実な上乗

社会 高校再編で懸念続

2 社 富山市に地鉄の新

富山総合 ウェイト有澤2連

そろばん世界大会支援

新田知事が意向

来年7月 富山市で200人参加

来年7月25～26日に富山市内で開催される「そろばん世界大会」で、富山県の新田八朗知事は12日の定例会見で、国際的な大会や学会を総称する「MICE（マイス）」の一つとして「一定の経済効果が見込める」と述べ、大会を支援する考えを表明した。国内外で珠算を学ぶ200人規模の児童生徒や、多くの保護者や大会関係者が集まる予定で、日本文化を通じた国際交流の進展に期待を寄せた。

「MICEの一つ」 国際交流に期待

北米連盟が主催

そろばん世界大会は富山国際会議場で開かれ、米オレゴン州最大の都市ポートランドで珠算教室を運営する坂林美和子さん（高岡市出身）が理事長を務める北

米珠算連盟が主催する。

新田知事は米国滞在中の2日、ポートランドで坂林さんが企画・運営に携わったそろばん世界大会を視察した。ポートランドの大会には日本、米国、カナダで珠算を学ぶ園児から高校生まで180人が出場し、英語で数字を読み上げる暗算競技などに取り組んだ。新田知事は子どもたちが喜々として珠算に親しんでいる様子に触れ「衝撃を受けたと同時に、言葉の壁はなく、珠算が世界に通じる日本文化だと実感した」と振り返った。

新田知事は「珠算を世界の子どもたちが一生懸命学び、競い合うことはとても



そろばん世界大会で暗算競技に
励む参加者
＝2日、米ポートランド

いかなあ」。戦場にそろばんを持ち込んだと伝わる利家。その魂は藩政期の「そろばん侍」に引き継がれ、現代も生きているとの見立てです。教室の様子を眺めると、一心にそろばんに向かう子どもたち。懐かしいその風景が、映画「武士の家計簿」

親は教育熱心だから、そんなことも考えて、そろばんを習わせるのではないでしょうか」

売薬さんも持ち歩く

会社に戻ると、同僚記者が興奮していました。「王国の立役者が見つかった！」

立役者とは、富山で9割、石川で3割のそろばん教室シェアを誇る「木谷綜合学園」（射水市）です。

で計算しとってんよ」と。子ども心に、藩祖がぐっと身近になったのを覚えています。でも、「本当？」とも思っただけです。400年前と今、どうつながっているのか。木谷学園が勢力を広げる前、富山、石川の教室数はそれほど多くなかった、とのデータもあります。北陸のそろばん熱を、学園はナニで呼び覚ましたのか。そのあたりのことを知れたかった

そろばん教室数 全国1位

で描かれた加賀藩御算用場（藩の経理を担う部署）に重なります。

「AIだって、使うのは人間。人間の能力を高めるのがそろばんなんですよ」。中村さんいわく、そろばんは計算器具ではなく「能力開発器具」。いろんな力が同時に鍛えられます。頭の中にそろばんをイメージする「珠算式暗算」では、右脳が活性化すると。石川や富山の

ナゼ教室を増やせたのでしょうか。木谷哲也副理事長はこう答えます。

「前田利家に代表される、加賀藩のそろばん文化の土壌かもねえ。富山の売薬さんのかごにもそろばんが入っていた、というし」

のですが、「最近はずっと子どもも少なくなってる」と木谷さん。真相は分かんない。御明算」とはいかなかったものの、利家から続く「そろばん土壌」の一端を感じることはできました。

1万人当たり 富山はむしろ増加

石川は2割減にとどまり、富山はむしろ増えています。

ナゼなのか。野々市市の「そろばんアカデミー」に向かいました。全国珠算教育連盟が主催する暗算検定の最高位・十段の合格者を、石川県で最も多く輩出する名門です。運営する中村友和さん（50）に尋ねると、こんな答えが返ってきました。

「前田利家が関係してるんじゃない

私、そろばんには詳しいほうだと自負していましたが、これは知りませんでした。

富山と石川は、そろばん教室の数が全国屈指の「そろばん王国」だといふのです。でもナゼ？

「教育熱心ゆえ」

そろばん、ならぬエクセルで計算すると、経済センサスと国勢調査に

ナゼナニ調査隊
20代記者が通う

ふとした疑問をフレッシュな目線で探ってみよう。そんな思いで部署を越えた20代記者が「ナゼナニ調査隊」を結成しました。初回は「そろばん」の話題。担当したのは、商業高校時代に「そろばん甲子園」優勝の経験を持つ金沢本社安田栞記者（25）です。

今回の調査隊員
■安田栞記者（25）